



を利用して、最終日に当たる2月26日土曜日の午後に開催しました。今回は2つの講習コースが設定され、うち1つは若手医師を対象とした呼吸器設定の基本的な事項とトラブル対策を行うセミナー、もう1つは院内急変対応チーム(RRT)のシミュレーションで、こちらは看護師向けの企画となりました。

...

私が担当したのは人工呼吸器のセミナーです。初期研修医や集中治療領域の研修をまだ行っていないようなレジデントを対象に、呼吸器の操作、動作上の不具合の発見方法などを解説し、人工呼吸器と患者肺のミスマッチに伴うバイタルサインの悪化とその解決法を実体験してもらうこととしました。

人工呼吸器を用いた実習形式のセミナーというと、FCCSのスキルステーションを思い浮かべますが、今回はさらに、人工呼吸器とシミュレータ、人工肺を組み合わせて、より臨場感をもたせることを講習の目玉の1つとしました。それぞれの機器が異なるメーカーのものですから、うまく連携できるのか心配しましたが、各メーカーの担当の方の熱意と、講習アシスタントとして参加してもらったCEたちの活躍のおかげで、機械間の調整は予想以上にスムーズに運びました。

セミナーは2つのスキルステーションを講習者が順番に回ることを実習を進

める形としました。1回15名ずつで2回の講習を行う案もありましたが、より少人数のコースのほうが効果的ではないかということで、1回10名を目安に1日3回の講習を行うことにしました。1回の講習時間は60分とし、最初の20分を人工呼吸器の基本的事項に関する講義と講習の趣旨説明を行いました。その後2グループに分かれてスキルステーションを順に回る形で講習を進めました。スキルステーションですが、1つはARDS、もう1つは閉塞性肺疾患を想定したシナリオを準備しました。

講習のはじめにはブリーフィングをごく簡単に行い、なるべく長い時間、呼吸器に触ってもらうよう配慮しました。講習者はお互い初対面で、短い講習時間の中でコミュニケーションがはかれるか心配しましたが、実際にやってみると、皆さんお互いに相談しながら上手に実習を進めてもらえたように思います。欲を言えば、もう少し長い時間をとってもらい、講習者だけで問題解決してもらうような形式をとっても講習としては面白いのではないかと思います。

...

私自身は学会期間中の準備と講習会当日のみの参加となりましたが、FCCS運営委員会のメンバーの方々は準備のためにかなりの時間を費やされたと聞いています。特に日本大学救急の古川誠先生には完成度の高いシナリオの作り込みをし

ていただきましたし、各メーカーの担当の方、CEの皆様には複雑な講習機器のセッティングや操作をお手伝いいただきました。当日の講習が比較的スムーズに進んだことの大部分はこのような事前の準備のたまものと思います。

今後に向けての反省点としては、やはり時間の制約につきるのではないかと思います。1グループ当たりの時間も十分とはいえませんし、各講習間の入れ替え時間ももう少し余裕をもたせるべきだと感じました。参加していただいた皆様からはおおむね好意的な感想をいただいております。今後も機会があれば是非この企画を続けていきたいと思っています。

この講習会の1か月後、東日本は大規模な震災に見舞われました。参加した皆様のなかには今も被災地で医療活動をされている方もいらっしゃるかもしれません。本講習会が何らかの形で参加していただいた皆様の役に立っていることを願います。

最後になりましたが、講習会を全面的にサポートしていただいたレールダルメディカルジャパンの皆様、コヴィディエン、スター・プロダクトの皆様に感謝します。



